

先日はてがたんにご参加いただき、ありがとうございました。てがたんの観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。次回5月のてがたんは、5月14日(土)で、「渡りと繁殖」がテーマです。ぜひご参加ください。

*市民スタッフの方へ 次回のとがたん下見は、5月7日(土)の9:30からです。よろしく願いいたします。

4月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→香取神社→桃山公園→藤棚→手賀沼遊歩道
- 観察日時と天気：2016年4月9日(土) 10:00~12:00 晴れ
- 参加人数：32人 (大人25人、こども7人)
- 市民スタッフ：9人 (小泉伸夫、石原直子、伊東茂子、蒲田知子、木村稔、染谷迪夫、弘實さと子、保田行弘、湯瀬一栄)
- 鳥博職員：2人 (小田谷嘉弥・美濃亜理彩)

観察した生き物の記録

【鳥類】

キジ科：キジ/カモ科：カルガモ、コガモ/カイツブリ科：カイツブリ/ハト科：キジバト/ウ科：カワウ/クイナ科：オオバン/カモメ科：ニシセグロカモメ/カワセミ科：カワセミ/キツツキ科：コゲラ/ハヤブサ科：チョウゲンボウ/モズ科：モズ/カラス科：ハシボトガラス、ハシボソガラス/シジュウカラ科：シジュウカラ(声のみ)/ヒヨドリ科：ヒヨドリ/ウグイス科：ウグイス(声のみ)/メジロ科：メジロ(声のみ)/ムクドリ科：ムクドリ/ヒタキ科：ツグミ/スズメ科：スズメ/セキレイ科：ハクセキレイ(声のみ)/アトリ科：カワラヒワ/ホオジロ科：ホオジロ(声のみ)、アオジ(声のみ)

【両生類・魚】

二ホンアマガエル(声のみ)、アズマヒキガエル(幼生)、ギンブナ(死体)、メダカ

【昆虫】

バッタ目：ヤブキリ(幼虫)/カメムシ目：ヨコヅナサシガメ、/コウチュウ目：ナミテントウ、ナナホシテントウ/ハエ目：ヒメセアカケバエ、アブの仲間、ユスリカの仲間/ハチ目：クロヤマアリ/チョウ目：モンシロチョウ、モンキチョウ、キタキチョウ、ベニシジミ、ムラサキシジミ、ナミアゲハ

【その他節足動物】

ダンゴムシの仲間、ゴミグモの仲間、エビグモの仲間、ハシリグモの仲間

【草の花】

キク科：セイヨウタンポポ、ハルノノゲシ、オニノゲシ、ブタナ、ハルジオン、オオジシバリ、オニタビラコ、ハハコグサ/シソ科：ヒメオドリコソウ、ホトケノザ/アブラナ科：ナズナ、オランダガラシ、イヌガラシ、タネツケバナ、セイヨウカラシナ/ゴマノハグサ科：オオイヌノフグリ、タチイヌノフグリ、マツバウンラン/バラ科：ヘビイチゴ、キジムシロ/ナデシコ科：オランダミミナグサ、ノミノツツリ、ツメクサ/トクサ科：スギナ(ツクシ)、スズメノヤリ/ヒガンバナ科：ハナニラ/アヤメ科：ニワゼキショウ/スミレ科：スミレ、タチツボスミレ/ケシ科：ナガミヒナゲシ/ハエドクソウ科：トキワハゼ、ムラサキサギゴケ/マメ科：カラスエンドウ、カスマグサ/カタバミ科：カタバミ、アカカタバミ/スイカツラ科：ノヂシャ/ムラサキ科：キュウリグサ、ハナイバナ

【木の花】

バラ科：ユキヤナギ、サクラ、モモ、ヤマブキ、モミジイチゴ/サルトリイバラ科：サルトリイバラ/カバノキ科：ハンノキ/アオキ科：アオキ/ヤナギ科：ネコヤナギ/ツバキ科：ヤブツバキ/ヤシ科：シュロ/モクセイ科：レンギョウ/ツツジ科：ドウダンツツジ/アケビ科：アケビ/ムクロジ科：イロハモミジ/モッコク科：ヒサカキ/マメ科：ハナズオウ

観察した生き物の記録



今回のがたんのテーマは「あびこの自然景観」でした。水辺・田んぼ・斜面林・台地など、我孫子の自然を形づくる景観とそこに暮らす生き物を観察しました。春を感じるさまざまな生き物が見られました。



今月の案内人 小泉伸夫さん



①壁面についていたナナホシテントウのさなぎ



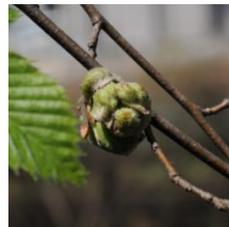
②イチョウの樹皮にいたヨコツナサシガメ



③カラス類のペリット。ザリガニなどが入っていた。



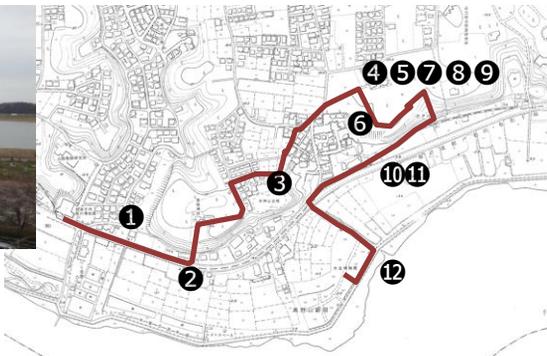
④卵から孵ったばかりのヤブキリの幼虫



⑤シデの枝先にできていた虫こぶ（ダニの仲間）



⑥桃山公園から見た手賀沼～斜面林～台地の景観。かつては手前の道の際まで湿地が広がっていたが、埋め立てて農地として利用されている。手賀沼は時代とともに干拓によって小さくなっている。



歩いたルートと観察した生き物



⑦タチツボスミレ。閉鎖花を作ってクローンで増えるため、台地や斜面林のあちこちで見ることができる



⑧芝生に生えていた外来種のマツバウンランの花



⑨背中と腹が赤いヒメセアカケバエ



⑩我孫子に渡来したばかりのツバメ



⑪アズマヒキガエルのオタマジャクシ



⑫冬鳥のカモの仲間では最後まで残っているコガモ

今月の鳥 シジュウカラ スズメ目シジュウカラ科

シジュウカラは、住宅地や林で一年中見られる小鳥で、白い頬と胸の黒いネクタイ状の模様がチャームポイントです。春には、「ツツピー、ツツピー」とよく通る声でさえずります。シジュウカラはもともと木の洞などに巣を作る鳥ですが、ポストや植木鉢などの人工物や、巣箱もよく利用します。そのため、人の住んでいる住宅地などにも進出しています。繁殖が終わると、ヤマガラやエナガなど、他の小鳥と群れを作ります。これを「混群（こんぐん）」と呼びます。我孫子市では台地や斜面林の景観でよく見られる鳥ですが、冬には水辺の林やヨシ原にも進出してきました。シジュウカラは、我孫子市の多様な自然景観を幅広く利用している鳥といえるでしょう。



冬になると水辺のアシ原でも見られるシジュウカラ